

減災 NEWS

近畿大学奈良病院DMAT災害対策委員会

文責：加藤 宏樹

vol. 23 2025. 12. 11

みなさんこんにちは。11月22日に実施された「令和7年度 近畿地方DMATブロック訓練」に、当院DMATが参加しました。本訓練は、京都府で発生した大規模地震（花折断層帯地震）発災を想定し、近畿地方DMATが病院間連携や情報共有体制を実働で確認する大規模訓練です。今回は、当院DMATが担った“病院支援活動”を中心にご報告します。

活動概要

当院DMAT隊は、京都府内に設置されたDMAT活動拠点本部（以下DMAT活拠）へ参集した後、地域の災害拠点病院である宇治徳洲会病院を支援する指示を受け、現地向けました。現地到着後は、宇治徳洲会病院が設置した災害対策本部の中に支援指揮所（DMAT支援指揮スペース）を設置し、二川医師をリーダーとして活動を展開しました。



今回の訓練では、新仕様となったEMIS（広域災害救急医療情報システム）を実際に操作しました。使ってみて初めて気づく課題や改善点が多く、実災害時の混乱を減らすためにとっても実践的な学びになりました。また、宇治徳洲会病院の災害対策本部の運営を見れたことも大きな収穫でした。情報整理の方法、本部と支援指揮所の役割分担、クロノロ（時系列整理）の使い方など、当院の災害対策本部を見直すうえで多くのヒントとなりました。加えて、支援を受ける側の動きや本部の意思決定の流れを実際に見ることで、私たちが災害時に病院として支援を受ける立場になった場合に必要となる準備や体制整備についても具体的に学ぶことができました。今回の訓練を通して、病院とDMATが一体となって動くことの重要性を改めて実感しました。



病院支援活動の内容

宇治徳洲会病院からは、建物損傷状況やライフライン、運用可能病床数、医療資機材の不足、来院した傷病者等の情報が共有されました。支援指揮所ではこれらを整理し、DMAT活拠へ情報を上げて必要な支援を調整し、病院側のニーズに沿った支援が行えるよう連携しました。さらに、DMAT活拠から傷病者の受入可否について照会があり、支援指揮所は病院へ状況を確認し、受入調整を進めました。支援指揮所は、病院とDMAT活拠の情報をつなぎ、搬送や支援が円滑に進むよう現場の調整を行いました。



【宇治徳洲会病院災害対策本部の皆様】
・本部要員の多くはDMAT隊員でした



【近畿ブロック訓練参加 当院DMAT】
医師：二川
看護師：加藤・三宅
調整員：古川

ご意見やご感想、ご質問等ございましたら、【患者さまの声】にお願いします。
（患者さまの声は、2階正面玄関前カウンター、再診受付機脇、各デイルームに設置しています。）